



東北の元気、
日本の元気を
青森から

復興へと向かう、それぞれの想い。そこから生まれる 絆と人の輪が、地域と私たちをより強くたくましくする。



朝日が昇る三陸復興国立公園（種差海岸）

東

日本大震災によって、県民の尊い生命が失われ、太平洋沿岸の住宅や農林漁業・商工業の施設設備、道路や港湾などあらゆるところで甚大な被害が発生。その影響は停電や燃料不足、物流の停滞などの現象となって県内全域に及びました。

一方、震災をきっかけに、人間が生きていく上で必要な食料・水・エネルギーを自給する力、太平洋側と日本海側の両方に物流ルートを持つ地理的優位性、互いに力を合わせて支えあう思いやりの心など、本県の「底力」に改めて気づかされました。

そこで、単なる復旧ではなく、このような本県が持つ強みを最大限に活かし、被災者の生活再建支援、災害に強い地域づくり、食産業・観光産業・物流拠点となる港などの強化、そして、これらの取組に必要な「人材」（人の財）の育成など、あらゆる面でこれまでよりも進化した地域社会づくりである「創造的復興」へと挑みはじめました。これらの活動によって、東北復興の先駆けとなること、本県の役目だと考えています。

地域の宝が「国の宝」へ、 人々の誇りが絆を強くする

平成25年5月、被災地域である八戸市の種差海岸と階上町の階上岳地域が、三陸復興国立公園として指定され、八戸市蕪島・福島県松川浦の間が「みちのく潮風トレイル」（長距離自然歩道）として整備が進み、11月に蕪島・岩手県久慈市の区間が開通。既に多くのトレッキング客が全国から訪れています。また、9月には八戸市から岩手

県沿岸、宮城県気仙沼市までの16市町村などの連携により、三陸地域が地形・地質・人の暮らしを含む「ジオ（地球・大地）」に親しみながら学べる「日本ジオパーク」に認定されました。

「三陸地域の自然の美しさを蘇らせた」と、そんな一人一人の思いが行動へと広がり、この地を訪れる観光客との新たな絆づくりへとつながっています。

東北の元気を 青森から届けていきたい

本県は被災県でありながらも、岩手県、宮城県、福島県への食料提供や人員派遣、避難者の受入れ、水産加工事業者の委託製造の手助けなど、積極的な支援を続けてきました。

平成23年8月には、「原発事故の影響のない地域で子どもたちに夏休みを過ごさせたい」という保護者の切実な願いから、福島の子どもたちを十和田湖での滞在プログラムへ招待。参加した子どもたちから、協力してくれた地域の人たちまで、笑顔があふれるひと時となりました。翌年からは白神や下北エリアを加えた3地域で開催。心を癒す大自然の中、支援の輪が広がっています。



下北キッズ2013

県内外の皆様からいただいた心温まるご支援は、復興を進めていく上で大きな支えとなりました。

あの日から3年が経とうとしている今もなお避難先での生活を余儀なくされている方々もいらつやいます。

震災で得た教訓を深く心に刻み、そして、東北全体の復興を先導し、支えていくためにも、「東北の元気、日本の元気を青森から」との強い思いを持って、「創造的復興」の実現に向け、進んでいきます。

これまでの歩み

平成23年3月11日 東日本大震災発生

国、市町村、自衛隊などの関係機関と連携して、被災者の救援や避難所に避難された方々への支援など、県民の生命・身体にかかわる事柄を最優先に取り組み

平成23年5月「青森県復興プラン」策定

本県が当面取り組む必要がある対策をとりまとめ、港湾施設などの主要インフラ施設については、概ね2年以内に機能回復させることを明記

平成23年12月「青森県復興ビジョン」策定

10年程度先を見通し、創造的復興を実現していくための中長期的な取組の方向性を示す

平成25年3月 主要インフラ施設の復旧ほぼ完了

復興プランに基づき計画的に取組を進め、震災から2年となる平成25年3月で八太郎北防波堤などを除き、主要インフラ施設の復旧がほぼ完了

平成25年7月 八戸港の復旧工事完了

八戸港が、八太郎北防波堤の完成により、全国の被災した主要港湾の本格的な復旧工事完了第1号となる